

ファイルベース収録で高効率なフルHD 3D制作を実現  
**世界初<sup>\*1</sup>、一体型二眼式フルHD 3Dカメラレコーダーを発売**  
 世界最大の家電見本市「2010 International CES」に出展

**開発の背景**

当社は、世界初<sup>\*1</sup>の低価格な業務用一体型二眼式3Dカメラレコーダーを2010年秋より発売し、2010年4月より本格的な受注活動を開始します。

昨今、ハリウッドを中心に次々と新作3D映画が発表されています。3D映像は、一過性の「ブーム」ではなく、映画界の新しい「本流」のひとつになろうとしています。これまで、当社は、2008年9月に世界で初めて、ブルーレイディスクとプラズマテレビを核にした家庭用の3Dシアターシステムを提案し、2009年2月には、ハリウッドの3D映画をブルーレイディスクにオーサリング収録するオーサリングセンター「パナソニックハリウッド研究所アドバンスドオーサリングセンター」を設立しました。現在、3D映画の制作には多くの労力と時間を要していますが、今回、制作環境の整備と効率化を目指した3D映像制作システム開発を加速することにより、高品質な3D映像コンテンツの制作促進に貢献してまいります。

なお、本製品の技術サンプルを2010年1月7日から10日まで米国ラスベガスで開催された「2010 International CES」パナソニックブース（Central 9405）に出展いたしました。

**主な特長**

**1) 世界初<sup>\*1</sup>、一体型二眼式3Dカメラレコーダー**

本製品は、業務用としては世界初<sup>\*1</sup>の一体型二眼式フルHD 3Dカメラレコーダーです。従来の3Dカメラシステムは、2台のカメラをリグに平行もしくはハーフミラーをはさんで垂直に交差するようにとりつけた大掛かりなシステムで、撮影には入念な調整作業が必要でした。また、レコーダーは別途用

意する必要がありました。それに対して、本製品はレンズ・カメラヘッド・メモリーカード記録部が1つの筐体に一体化しており、従来の3Dカメラシステムと比べ大幅に低価格、かつ小型で高い機動力を發揮し、メンテナンス性にも優れています。



**2) コンバージェンスポイント<sup>\*2</sup>調整機能と左右映像ずれ自動補正機能を搭載**

光学部は二眼レンズ方式を採用することでコンバージェンスポイント<sup>\*2</sup>を調整可能のほか、左右の映像ずれを自動補正する機能を装備します。従来の3Dカメラシステムでは、撮影時の映像ずれは編集・画像加工時に補正して取り除く必要がありましたが、本製品ではカメラ本体のみで自動補正でき、速やかに撮影することが可能です。

**3) 3D映像でも高効率な制作ワークフローを実現する、メモリーカードへのファイルベース収録**

左右のフルHD映像をメモリーカードにファイルベースで記録することができ、他のメディアに比べ収録時に高い信頼性を發揮するとともに、メカレスによりメンテナンスコストの大幅な削減も可能です。ノンリニア編集システムとの親和性も高く、高効率な制作ワークフローを実現します。

\*1：フルHDをメモリー収録できる一体型二眼式3Dカメラレコーダーとして。（2010年1月現在、当社調べ）

\*2：左右のレンズ光軸の収束点。

◆ 詳細URL ◆ <http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn100107-3/jn100107-3.html>

前モデル比約1.4倍<sup>\*1</sup>の高速化。高性能がさらに進化した「S9/N9シリーズ」新登場  
**モバイルノートパソコン Let'snote 春モデル発売**  
 インテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> i7 プロセッサ搭載で世界最小<sup>\*2</sup>ボディ「R9シリーズ」新登場

**開発の背景**

レッツノートシリーズは、1996年の発売以来「軽量」「長時間」「頑丈（タフ）」という貫いたコンセプトのもと開発・進化を続け、お客様から高い評価をいただいています。2009年冬モデルでは標準電圧版CPUを採用したS8/N8シリーズを発売し、ご購入者の約96%の方に満足頂き、高い評価を得ました。今回はさらなる高速処理性能への要望にお応えするレッツノート「9シリーズ」を発売しました。

プロフェッショナルモバイルに欠かせない「軽量」「長時間」「頑丈（タフ）」に加え、「高性能」と日本製ならではの「高品質」を提供いたします。

**主な特長**

**1) 高性能がさらに進化したプロフェッショナルモバイル**

**(1) 新 2010 インテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> プロセッサ・ファミリーを搭載**

- ・F9/S9/N9：インテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> i5-520M vPro<sup>TM</sup> プロセッサ（2.40 GHz）搭載。
- ・R9：インテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> i7-620UM vPro<sup>TM</sup> プロセッサ（1.06 GHz）搭載。

S9/N9, R9シリーズは、それぞれ前モデル（S8/N8, R8）比約1.4倍<sup>\*1</sup>の高速処理を実現。

**(2) 業界最高容量（18650サイズにおいて）3100 mAh高容量リチウム電池搭載で長時間を実現**

- ・S9/N9：約14時間<sup>\*3</sup>、F9：約9時間<sup>\*3</sup>、R9：約7.5時間<sup>\*3</sup>

**(3) 高速モバイル通信「モバイルWiMAXモジュール」を標準搭載（R9を除く）**

**2) 「R9シリーズ」にインテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> i7プロセッサを搭載し世界最小<sup>\*2</sup>ボディを実現**

- ・独自の新放熱設計により10.4型、約0.93 kg<sup>\*4</sup>のボディにインテル<sup>R</sup> Core<sup>TM</sup> i7 プロセッサを搭載。

**3) 「全シリーズ」当社独自の頑丈（タフ）設計**

- ・「76 cm動作落下試験<sup>\*5</sup>」、「100 kgf 加圧振動試験<sup>\*6</sup>」を実施、「キーボード全面防滴<sup>\*7</sup>」を実現。



\*1：バックグラウンドでウイルスチェックを実行しながら、Flashを動かした状態で、ワード及びエクセルで作業した場合の処理時間を比較。

\*2：10.4型液晶以下搭載ノートパソコンにおいて。（2010年1月25日現在）

\*3：JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver.1.0）による駆動時間。バッテリー駆動時間は動作環境・液晶の輝度・システム設定により変動します。エコノミーモード（ECO）有効に設定している時の駆動時間は、無効時の約8割になります。

\*4：標準バッテリー装着時。平均値。各製品で質量が異なる場合があります。

\*5：当社実験室にて、76 cm動作落下試験は、底面落下動作時。30 cm落下試験は、26方向非動作時。本製品の耐衝撃・耐圧迫性能は、無破損・無故障を保證するものではありません。

\*6：当社実験室にて非動作時。加圧振動試験は天面と底面全体に均等に980 N（100 kgf）で圧迫した状態で振動試験を実施。本製品の耐衝撃・耐圧迫性能は、無破損・無故障を保證するものではありません。

\*7：当社技術実験室にて動作時実施。防滴範囲はキーボード全面です。（側面、バッテリー部、スピーカー部、スイッチ部、DVDドライブが開いた状態（S9/F9）は対象外）本製品の防滴性能は、無破損・無故障を保證するものではありません。

◆ 詳細URL ◆ <http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/jn100125-2/jn100125-2.html>